

「大里小中学校の弓矢踊り・面踊り」伝承活動の取組

1 学校名

三島村立大里小中学校

2 学年・人数

小学1年生～中学3年生（計14人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成24年 6月19日（火）大里小中学校校庭
7月 9日（月）大里小中学校校庭
9月19日（水）大里小中学校校庭
9月21日（金）大里小中学校校庭
9月25日（火）大里小中学校集会室
10月 5日（金）大里地区健康広場
10月12日（金）大里地区健康広場

(2) 発表の日時・場所

平成24年10月15日（月）大里地区・大里小中学校大運動会
（大里地区健康広場）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

(1) 名称

弓矢踊り（ゆみやおどり），面踊り（めんおどり）

(2) 由来

ア 弓矢踊り

1584年肥前の太守，龍造寺隆信に攻められた有馬氏を助けるために，島津義弘の弟家久は島原に出陣し，肥前の軍勢を撃破した。この時の家久の子，豊久は十五歳で参戦し，見事な若武者ぶりを披露した。この弓矢踊りは，豊久の勇猛果敢な戦いの様子を表したものである。

イ 面踊り

五穀豊穰と子孫繁栄，生産を祈る踊りで，手には，すりこ木としゃもじを，腰にはひょうたんを持つ。

(3) 構成等

ア 弓矢踊り

最初はテンポの遅い曲調で，烏帽子をかぶった島津軍と兜をかぶった龍造寺軍の二列に別れ，鉦（かね）と太鼓の音に乗って入場してくる。

各列先頭の二人が島津豊久役と龍造寺隆信役となり、お互いの口上をあげた後、地唄手（ジュウテー）の歌に合わせて、鉦や太鼓で調子を取りながら優美に踊る。弓を左手に持ち、背中に矢筒を背負い、歌に合わせて弓を左右に大きく振りながら前後に大きく動き、その後、矢筒より矢を取り出し、弓につがえ、弓を射る様子を表現している。途中で、テンポが速くなり、鉦と太鼓が両軍の間を片足跳びで移動すると、両軍の踊りも歌と共に素早くなってくる。

イ 面踊り

思い思いのボロをまとい、ビロウの葉、シュロの皮、ガジュマルのヒゲ根などで身を飾り、腰にはヒョウタンを下げ、顔には鬼、おかめ、ひよっとこ、かっぱ等の面をかぶり、右手には「メシゲ」、左手に「すりこ木」を持った「メン」たちが、会場の右手と左手の二組に分かれ、「ヒョウ、ヒョウ」という奇抜なかけ声を出しながら出てきて踊る。

地唄手（ジュウテー）の人たちの歌に合わせて、「メシゲ」と「すりこ木」を頭上で軽くたたき合い、片足跳びをしながら地面に座った「メン」の前後を移動する。「メシゲ」と「すりこ木」で軽く両脇に触れて、次の「メン」に受け継ぎ交代する。

5 保存会や地域との連携の具体

9月から10月にかけて3回ほど、地唄手（ジュウテー）の方々3人を、「ふるさと先生」として学校に来ていただき、踊り方等のご指導を依頼している。また、地域の行事（8月15日の夏祭りの奉納踊り、9月1日の八朔（はっさく）踊り）に学校職員有志も参加している。教師自身が地域の行事に参加することにより、伝統の踊りを体験、地域の方々から直接ご指導いただき、ご指導いただいたことを児童生徒への指導に役立てている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 小学校と中学校の面踊り、弓矢踊りの練習の時間を合わせた。
- (2) 小中合同の練習時、「ふるさと先生」を招聘し、指導を依頼した。
- (3) 弓矢踊りで使う、弓と矢を児童生徒数分作製した。
- (4) 弓矢踊りで使う「兜」を児童生徒数分作製した。
- (5) 弓矢踊りで使う弓の装飾を新しく行った。
- (6) 運動会前日最後の練習で、実際の衣装を着けて練習できるよう保護者に着付けを文章で依頼した。（踊り揃え）

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



弓矢踊り 練習



弓矢踊り 運動会当日



面踊り 練習



面踊り 運動会当日

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 面踊りでは、大きな動きをしながら面白おかしく踊るように努力しました。弓矢踊りでは大将を任せ、口上を述べる時には大将になりきり、みんなを率いて全力で踊りきりました。これから先も、この島に伝わる伝統芸能を続けていきたいです。
- ・ 弓矢踊り、面踊りという地区に昔から伝わる郷土芸能の大切さがわかりました。今年は初めて大将役を引き受けさせてもらい不安もありましたが、先輩に教えてもらいながら練習しました。地区の人々からよかったと言われ、とてもうれしかったです。来年は後輩たちにもしっかり教え伝えていきたいです。
- ・ 学校側が地区の伝統芸能であるこれらの踊りに、児童生徒を積極的に参加させていただき大変感謝しています。
- ・ 地域が一体となって次世代に伝統ある芸能を伝えようとしている点がすごいと思った。
- ・ 先祖を大切にしている地域であり、命をかけて家族を守った先祖へ感謝する心が育ってくれると思います。子どもたちの踊りを見て、大人が踊りに対

する意識の回復も進んでいくと思います。

- 衣装が独特で、手作りの面もいろんな表情があり面白かったです。伴奏が生唄で歌い継がれている歴史にも驚きました。
- ふるさと先生に指導に来ていただいたが、それぞれの動きに意味があることを丁寧に教えていただき、どういう状況の中で生まれた踊りなのかが理解できた。
- 小中学校時代に地元で踊った子どもたちが成人し、再び夏祭り等で島に帰ってきた時に、先祖に感謝する気持ちになってくれたり、地元の人たちと一緒に踊ってくれたりするなど踊りの輪が広がって欲しい。
- 伝統的に伝わる衣装を子どもたちが嫌がることなく着て、和気あいあいとして踊っている姿に好感が持てる。
- 踊り手がだんだん少なくなって途絶えてしまうことが心配されますが、学校で踊ることで継承して行って欲しいですし、帰省時に自然と踊れるように、島を思う気持ちも大切に繋いで行って欲しいです。